

取扱い説明書

この度は、お買い上げいただき誠にありがとうございます。
当商品は、D I Y（日曜大工）が得意な方でしたら、慎重に作業すれば設置可能です。しかし、組立・取り付けの不備による事故について保証はございませんので、作業に際しましては十分にご注意くださいますようお願い申し上げます。基本的には、お近くの内装業者・電設業者へ依頼をされる事をお勧めします。



組立不良・取り付け不良、および天災等による事故・損害については、一切の保証はございませんので、ご了承ください。

- ・安全性を十分に考慮し、設置中に怪我や部屋にキズを付ける事の無いよう注意下さい。
- ・設置にあたっては、十分な作業スペースを確保してください。
- ・取り付け工事は2名以上で行うことを強く推奨いたします。
- ・テレビの壁掛け以外のご使用、部品の改造等はしないでください。
- ・設置中に少しでも不安を感じた場合は、作業を中断し、お近くの内装業者・電設業者にご相談ください。

部品リスト

本体



AR110
ショートアーム



AR210
ロングアーム



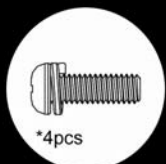
*4pcs

コンクリートアンカー



*4pcs

壁面用ボルト



*4pcs

TVブラケット用ネジ

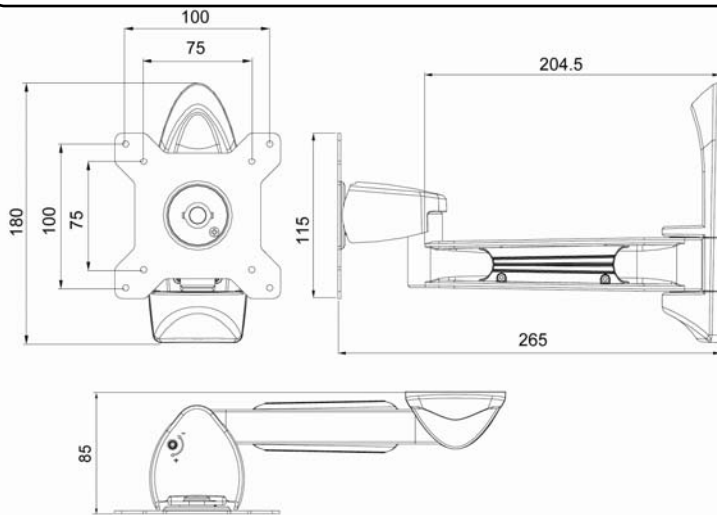


● 2.5mm

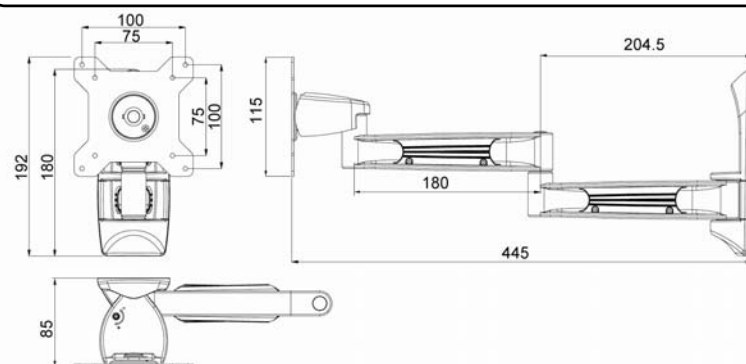
*1pcs

六角レンチ

AR110寸法図 ショートアームタイプ



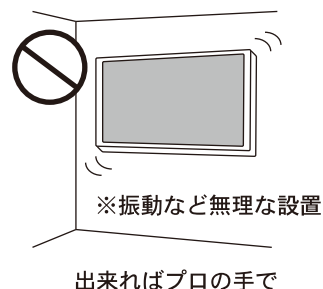
AR210寸法図 ロングアームタイプ



設置にあたって：必ずお読みください

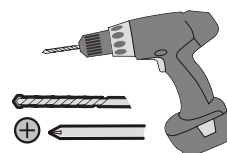
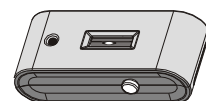


- 必ず耐荷重強度のある壁や壁裏の間柱（スタッド）にしっかりと設置してください。無理な設置はテレビの落下、大怪我に繋がります。石膏ボード壁のみへの設置はお止めください。
- コンクリートやレンガ壁に設置する場合、専門業者に依頼するようにしてください。
- 電源コードや配線にキズを付ける事の無いようにご注意ください。火災などの原因になります。
- 設置の際は、テレビや周辺機器の電源をコンセントから抜くようにしてください。
- 以下の場所には設置をしないでください。
 - ・振動があるような不安定な場所
 - ・人がぶら下がったり、寄りかかったりするような場所
 - ・湿度や温度の高い場所
 - ・テレビの通気が悪い場所（エアコンの側、天井のすぐ側等）
 - ・開閉するドアの側
 - ・その他、テレビ設置に不適合だと思われる場所



設置にあると便利な道具

- 1) 間柱センサー
壁裏にある間柱を見つけるのに便利です。
細い針（検知針）やキリを壁に刺して代用する事も可能です。
- 2) ドライバー
ネジ頭のサイズに合わせて、数種類があると便利です。
- 3) ドリルドライバー
電動ドライバーです。壁のネジ穴の下穴を開けるのにも使えます。
- 4) ペン
壁にネジを打ち込む位置をマーキングします。
- 5) メジャー
床からの距離を測ったり、金具の水平を取る時などに使用場合があります。
- 6) 柔らかい布
設置の過程で、床などにテレビを置く事になります。下に敷いてテレビを保護します。
- 7) 軍手
手を保護します。テレビを持つ時は滑らないように素手が良いかもしれません。



さあ、設置・・・の前に

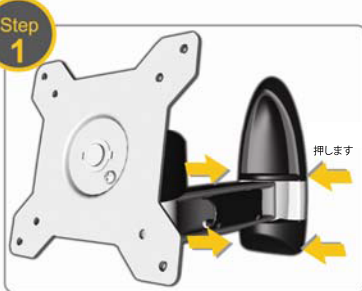
- 設置前にテレビと金具の適合を必ずご確認ください。

取り付け前提条件	テレビ背面对応ネジ穴幅	対応テレビインチ	最大テレビ重量
テレビ背面に壁掛け用のネジ穴が開いていて、 テレビ背面がフラットである事	テレビ背面にある壁掛け用ネジ穴の縦横ネジ幅 縦横 75×75mm 100×100mm VESA 規格	13-32 インチ	12kg

- 設置に必要なネジ類は付属しています。しかし壁の状態によっては若干細く短いネジがあると作業がし易い場合があります。その時はホームセンター等でご用意下さい。

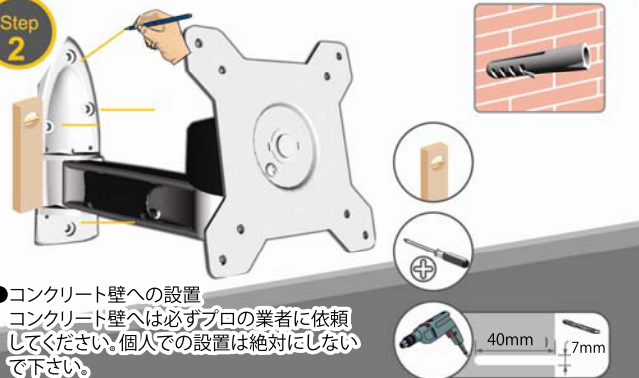
設置方法

Step 1



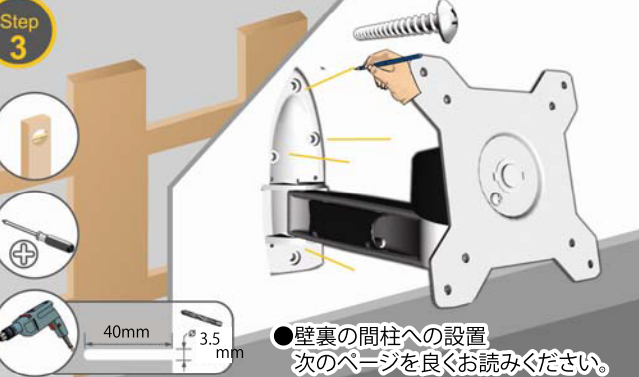
図を参考にして
上下のプラカバーを外します。

Step 2



●コンクリート壁への設置
コンクリート壁へは必ずプロの業者に依頼
してください。個人での設置は絶対にしな
いで下さい。

Step 3



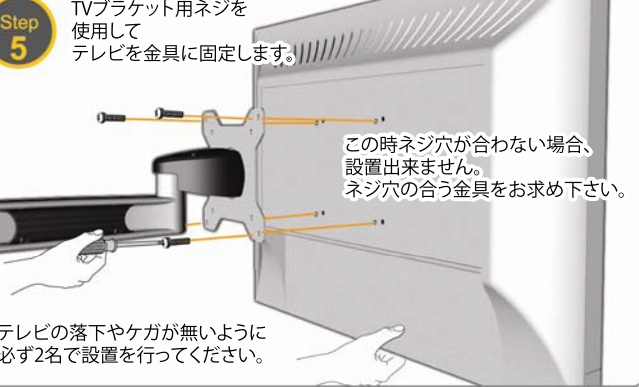
●壁裏の間柱への設置
次のページを良くお読みください。

Step 4



壁への設置後、
プラスチックカバーを元にはめます。

Step 5



TVブラケット用ネジを
使用して
テレビを金具に固定します。

この時ネジ穴が合わない場合、
設置出来ません。
ネジ穴の合う金具をお求め下さい。

テレビの落下やケガが無いように
必ず2名で設置を行ってください。



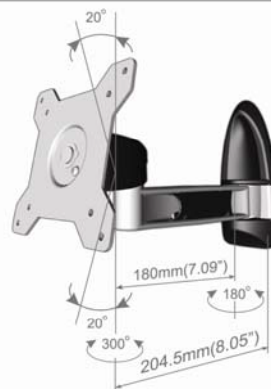
ご注意

●少しでも設置に不安を感じたらプロの業者に依頼して下さい。
●事前に3ページも良くお読みください。

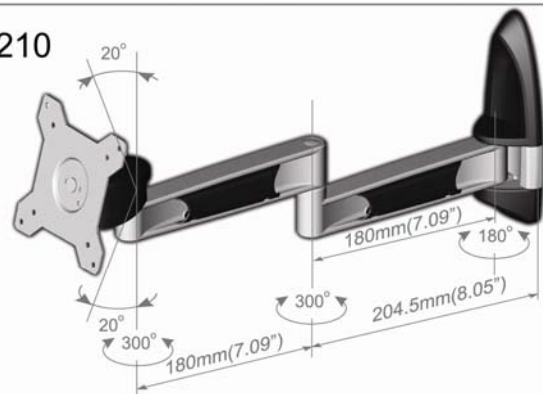
●ホームセンター等で別途設置ネジをご購入下さい。
●壁の状態等によっては、

角度調節や配線処理

AR110



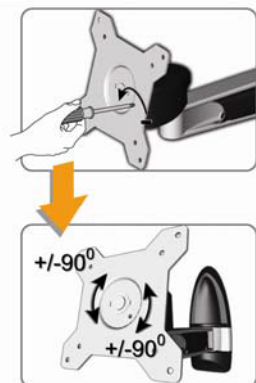
AR210



水平調節機能

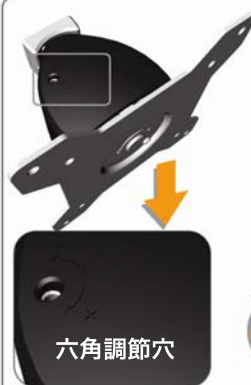


+90°



+/-90°

上下の角度調節については、図の位置にある
六角ネジを調節する事で対応します。



六角調節穴

テレビの重さに合わせてトルクを調節する事で
テレビの自重によりお好みの上下角度にする事が
出来ます。



ケーブル処理について

図のようにプラカバーを外して配線を這わせる事で
美観を保つことが出来ます。



壁面への金具の取り付けについて



テレビ壁掛けの最重要ステップです。取り付けは慎重・確実に作業するようにしてください。壁面への取付不備による事故・損害、及び施工中に付くキズ・破損等については、一切の保証がありません。少しでも不安に感じたら、お近くの内装業者・電設業者に相談してください。

●壁の構造について（必ず耐荷重のある壁への設置を！）

設置は補強のある壁、もしくは壁裏の間柱（スタッド）に行ってください。

石膏ボード壁の場合、ボードのみの部分にネジ打ちする事の無いよう、十分に注意ください。壁裏の間柱を見つけるにはホームセンター等で売っている壁裏センサー（1500 円程度）やキリを更に細くした検知針が便利です。

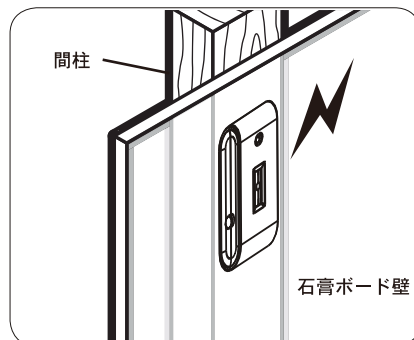
●間柱を見つけたら

間柱を発見した場合、間柱の「中央」にネジを打つ必要があります。間柱の端にネジを打つと強度が不十分だったり、間柱が割れてしまう事もあるので注意しましょう。詳しくは、センサーや検知針の説明書をご覧ください。

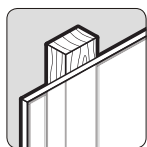
●コンクリートやレンガ壁について

コンクリートやレンガ壁への設置は、難易度が高い施工になります。お近くの内装業者等の専門業者に依頼してください。個人での設置は絶対に行わないようにしてください。

石膏ボード壁は間柱に！



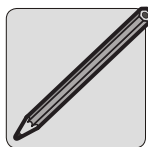
●一般的石膏ボード壁の場合
壁裏センサーを使用して間柱を見つける。
キリ等を使う場合、何度か刺して柱の中央を見つけましょう。



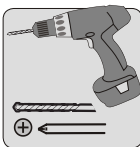
間柱に設置を



壁裏センサー



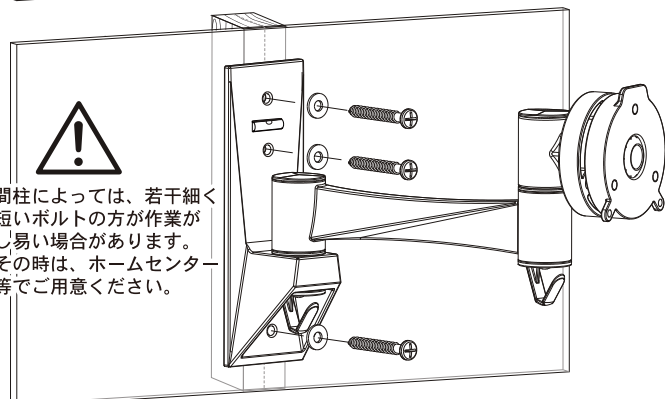
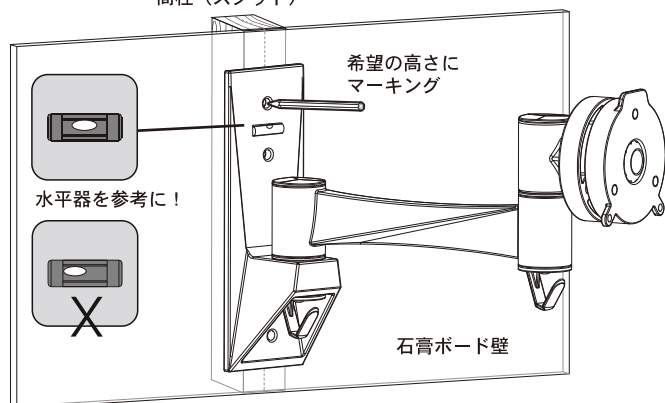
マーキング



壁へのネジ打ち

※図はイメージです。実際の金具と異なります

間柱（スタッド）



1) 設置位置の確定

現在の主流である石膏ボード壁の場合、上記を参考に壁裏の間柱（スタッド）を見つけてください。

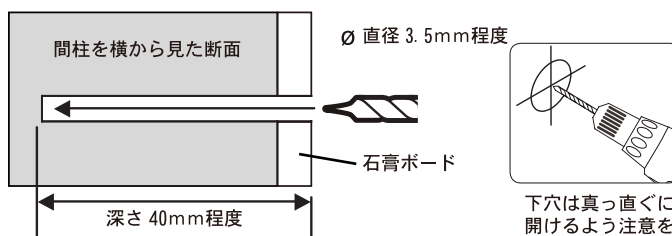
間柱は一般的に 40 ～ 45 センチ幅で設置されている事が多いようです。ご参考ください。

間柱が確定したら、左図のようにネジ穴にマーキングをします。

2) ネジ打ち用下穴の開孔

壁を横から見た断面図（下）を参考にして、ネジ打ち用の下穴を開けます。電動ドリルがあると便利です。

壁にキズをつけますので、慎重に作業を行ってください。



3) 金具の壁面への取り付け

左図を参考にラグボルトを使用して金具を壁面にしっかりと打ち付けます。

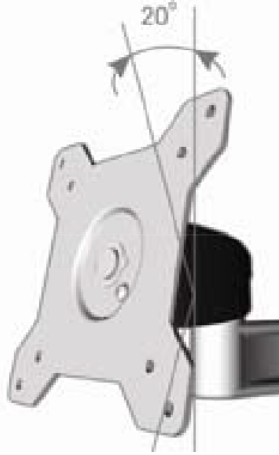


最重要ポイント

ネジ打ち後、少しでも違和感を感じたら（ネジの空回り等）設置を中断し、専門業者に相談してください。

テレビの上下角度調節のテンション調整

- スプリングを調節する事で、テレビの上下動を快適に行う事が出来るようになります。
- 取り付けたテレビの重さによって、スプリング部のテンションを調節します。下図を参考にして、六角レンチで調整します。希望する上下角度にテレビが留まる（勝手に落ちたり、上向きにならない）のがベストの調整テンションです。



※テレビの上下角度調節をスムーズに行う機能です。



- 六角レンチで、スプリング強度を調節します。テレビの重さに応じて以下の方向に調節します。

- ・テレビが勝手に下がる場合、「+」マーク方向
- ・テレビが勝手に持ち上がる場合、「-」マーク方向

TVが大きい時（アームが勝手に下がる）



に回して調節

TVが小さい時（アームが勝手に上がる）



に回して調節

取付の終了と確認

各取り付け部分や壁面部にガタつき等がないか、チェックしてください。緩みがあった場合は、しっかりと締め直しましょう。少しでも違和感があった場合、テレビを一旦取り外し、専門業者に相談してください。これらのチェック作業は3か月程度を目安に定期的に行い、経年使用による落下などが無いように注意してください。